

南湖におけるホンモロコの産卵状況調査

片岡佳孝

1. 目的

南湖はかつてホンモロコの主要な産卵場であったが、近年、産卵がほとんど確認されない状況が続いていた。このため、滋賀県では種苗放流、水草刈り取りおよび外来魚駆除を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。本項では南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

2. 方法

産卵調査は、草津市下笠地先のヤナギ林（調査区間：約 153m。以下、下笠）および守山市赤野井地先のヤナギ林（調査区間：約 212m。以下、赤野井）において週 1 回の頻度で産着卵数の計数調査を行った。下笠では、2021 年 3 月 18 日～7 月 7 日の期間に計 17 回、赤野井では 3 月 17 日～7 月 29 日の間に計 19 回行った。

3. 結果

ホンモロコの産卵は、下笠では 3 月 18 日～6 月 24 日、赤野井では 3 月 24 日～7 月 13 日に間で産着卵が確認された（図 1）。産着卵数のピークは、下笠が 6 月 2 日、赤野井が 5 月 27 日であった。

両地点の総産着卵数は 2019 年から大幅に増加しているが、本年度はさらに増加し、両地点の総産着卵数は、昨年度に比べて下笠は 2.2 倍、赤野井は 2.6 倍となった（図 2、図 3）。

南湖のホンモロコの自然再生産は、現在のところ順調に回復してきていると判断されるが、ホンモロコ資源はかつて急激な減少（漁獲量が 246t（1994 年）から 29 t（1998 年））を経験していることから、今後も引き続き産卵状況のモニタリングを行う必要がある。

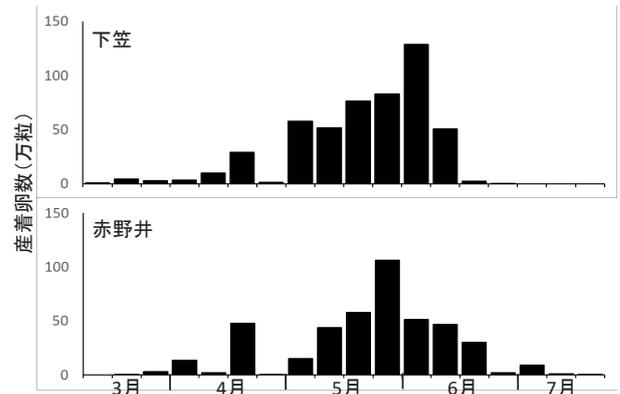


図 1 2021 年度の産着卵数の推移

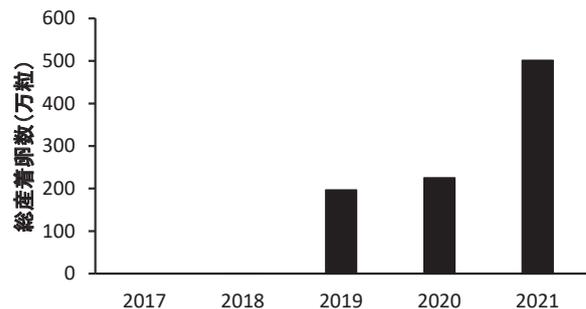


図 2 下笠における総産着卵数の推移
(2017 年は未調査)

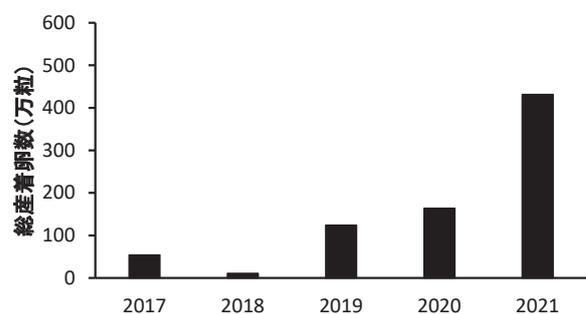


図 3 赤野井における総産着数の推移